

山と電気の風景論 ④

霧島・韓国岳、戸隠・高妻山～「太陽パワー神」となじみ深い岩戸伝説～

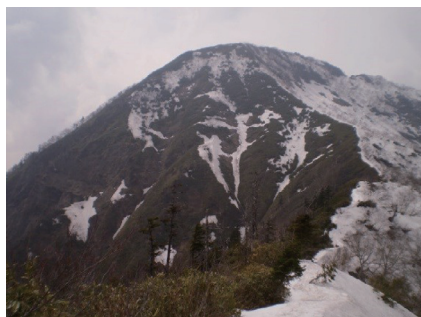
セリングビジョン(株) 代表取締役 岡部 秀也

今年5月連休には、友人達と江戸川ウォークを楽しんだ翌日、戸隠高原に山桜、水芭蕉を見つ登山を兼ねて行って来た。現地で地元の伝説を聞くと、長野・戸隠は宮崎・高千穂と、天照大御神の降孫降臨、岩戸隠れで深く繋がっているとのこと。

本号では、九州、信州と地理的に離れているが、歴史的には近いという霧島連山、戸隠連峰の各最高峰、韓国岳と高妻山を紹介したい。二座とも百名山である。なお、いま韓国岳には、えびの高原から、途中の硫黄山の火山性ガスを避けるように回り道し



岩戸を開く智慧神を祀る戸隠神社中社。観桜。



高妻山、残雪の急登ルート。八観音付近より。

なければならぬ(2年前は、直接ルートで登れた)。

天岩戸(あまのいわと)伝説は日本神話の一つ。岩戸とは固く大きな岩石でできた山裾にある洞窟を言い、太陽神の天照大御神が「スサノウの命」の狼藉に怒り、この岩戸に隠れたため、世の中が真っ暗闇になった。岩戸を開けて天照大御神に出てきてもらうため八万百の神々が集合し天安河原で秘策を練り上げた。アイデアを出し、岩戸の回りで裸踊りや祭りを挙げる。外で楽しく、笑い、面白そうなのは何だろうと好奇心を抱き、大御神が戸を少し開け覗き見したところを、すかさず力持の神(手力雄命)が岩戸を全開し、その岩を戸隠村まで投げってしまった。こうして、この世が再び明るくなった。古事記、日本書記などに記載された逸話である。なぜ戸隠まで岩戸が飛んで行ったのか、ミステリーだが…。

岩戸自体は、宮崎県高千穂町に鎮座する天岩戸神社(1800年の歴史)付近にある。秘境伝説によれば、その岩戸の一部が天を飛んで長野の戸隠村に着地し戸隠神社(創建2000年余り)の名前になった。

こうした由来から、今回は、「太陽パワー神」天照大御神になじみの高千穂地方の霧島連山最高峰・韓国岳と、戸隠連峰の高妻山のヤマレコである。



岩石と残雪の高妻山頂上にて。

高妻山2353m (平成28年5月)

戸隠高原には広く深いビオトープ(自然の生態系)の世界が待っている。4月に歩いた屋久島と雰囲気は何となく似ていた。唐松、杉やダテカンパの大樹、悠久の神社、そして修験道の戸隠連峰。水も凄烈だ。水源を意味する九頭龍山があり水力発電所がある。最高峰の高妻山までは、戸隠神社の中社、奥社を経て、テント張りの広大なキャンプ場や牛等の牧場をゆったりと歩き、ようやく登山口。古い不動ルートもあるが、到着が遅いため比較的安全で早い弥勒新道を往復することにした。いきなり、川の渡渉が待っていた。その後は、杉木立等の古木の根や熊笹や残雪を踏みしめて鎖場も含めアップダウンするコースの連続。新道だけに、目印が少ないし、休憩する適当な場所が、約2時間登山の「六弥勒菩薩」の分岐点までない。登頂を果たした方々(4パーティ)に聞くと、「残雪で滑りやすくアイゼン必至で想定以上に疲れた」とのこと。そこから、七葉師、八観音、八丁ダルミ、そして九勢至から一時間を経て十阿弥陀から10分で登頂。残雪急登となり、やはりきつかった。尻餅をつきつつ、残雪の踏み抜きをした。

帰りは、雪が固まっているため登り以上に神経を使った。結局、日本百名山の三大長距離山岳を8時間で登山し、戸隠神社も立ち寄ったため、歩き時間は10時間となり、戸隠高原の、岩戸ならぬ木戸宿に一泊した。タフで神秘的で敵かなコースだった。

【行程】

- 08:06 長野駅着(新幹線)。
- 08:30 バスで戸隠へ。
- 09:35 中社参拝(戸隠伝承では中社の神は知恵の神で天照大御神が岩戸から出る神楽を考案した)。
- 10:00 女人堂跡を経て奥社(水芭蕉や、高山植物)。
- 10:36 戸隠キャンプ場。
- 10:45 弥勒尾根登山口発(登山カード記入)。
- 13:00 六弥勒着(八合目で不動コースと分岐)。
- 14:45~14:55 高妻山登頂(10分休憩)。
- 16:20 六弥勒着。
- 17:55 登山口着。

韓国岳1700m (平成26年3月)



天岩戸神社。御祭神:天照皇大神。



硫黄山遠景。登山時は硫黄臭だけで噴煙はなし。

当日は鹿児島で前泊し、始発ローカル電車で開聞岳駅から開聞岳に登頂し、下山後、バスで指宿まで乗継ぎ、レンタカーを借りて、九州高速道路を通過し霧島火山帯の韓国岳登山口に14時50分着。時間的に余裕がなく

ぎりぎり歩き出した。山道は、火山性の岩石がごろがり、歩きにくい。つまづきながら、硫黄山の噴煙の立札を横切って強風と小雨で視界が見えにくい中を往復した。頂上では早朝からの開聞岳往復で足も疲労していたこともあり視界も晴れなかったため、10分ほど頂上で写真などをとり5-6パーティの方々とあいさつしつつ、登山口に向かった。2時間半のトレッキングだったが、山々の雰囲気はおごそかで、神聖な雰囲気を感じた。また、いつ「スサノウの命の狼藉」によって天候急変や噴火をしてもおかしくない霊気を感じて、早めに下山した。霧島連峰の神社に登山安全達成のお礼で手を合わせ、湯煙の温泉街をドライブして夜、鹿児島空港発で、帰京した。

【行程】

- 15:00 登山口「えびの高原」。
- 15:35 硫黄山前。
- 16:30 韓国岳登頂。
- 16:40 韓国岳発。
- 17:30 登山口「えびの高原」。

